

『東海学園大学スポーツ健康科学部研究紀要』第11号発刊によせて

スポーツ健康科学部学部長

丸山裕司

本年度『東海学園大学スポーツ健康科学部研究紀要』を謹んで公刊するにあたり、ここに巻頭の辞を申し述べます。

まず、本紀要の発行に当たり、多大なるご尽力を賜りました関係各位に深甚なる謝意を表します。本紀要は、教員および学生が長年にわたり積み重ねてきた教育・研究の成果を広く社会に発信する場として創設されたものであり、特に本学部の根幹を成す保健体育科教員養成に関する理念と実践が、着実にその厚みを増していることは誠に心強い限りであります。

周知のとおり、現代社会における健康課題は、身体活動量の低下、生活習慣病の増大、フレイルの進行、さらにはスポーツ価値観の多様化など、複雑性を増しております。こうした状況は学校教育においても高度かつ統合的な対応を求めるものであり、保健体育科を担う教員には、運動技術や知識を伝達するのみならず、児童生徒の生涯にわたる健康観を形成する指導者としての重要な役割が期待されています。本紀要には、授業実践や指導法の検証、運動学習や安全教育の改善に資する研究報告が多数収録されており、これらは本学がめざす保健体育科教員像の深化に直結するものといえます。

本学部では、建学の精神を基盤とし、「人間力」に裏打ちされた教育的洞察と科学的根拠に基づく指導力の涵養を重視しています。授業における指導技術の検討、教材研究、運動の本質理解、身体の安全管理、健康行動の形成に関する研究など、教育課程の実践から生まれる知見は、必ずしも華々しい理論研究と同一線上で語られるものではありません。しかしながら、児童生徒一人ひとりの成長と真摯に向き合い、現場のリアリティに根ざして蓄積される実践知こそ、保健体育科教員養成の基盤として極めて重要な価値を有します。本紀要に収録された研究成果は、まさに教育現場の課題と向き合い、改善の道筋を探求する不断の努力の結晶であり、学術的・実践的両面において高い意義を備えていると確信しております。

さらに、保健体育科教員養成における研究蓄積は、学生にとっても極めて貴重な学修資源となります。授業において試行された指導モデル、測定評価の工夫、教材導入の効果などは、次代の教員を志す学生が自身の将来像を具体的に描くうえで欠かせない学びの基盤となるものです。本紀要が教員養成の高度化に寄与し、教育現場における確かな実践力の育成を一層推進することを期待する次第です。

結びに、本紀要の刊行に際し、日頃より教育・研究・地域連携の諸活動に尽力されている教員の皆様、協力いただいた学生諸君、そして本学部の発展を支えてくださる地域

および関係機関の皆様に、あらためて厚く御礼申し上げます。本紀要が、保健体育科教員養成を中核とする本学部の使命を広く社会に示し、健やかな未来を担う人材育成に資することを願い、巻頭の辞といたします。